

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670100951
法人名	医療法人 八多病院
事業所名	グループホーム ハタ
所在地	徳島県徳島市八多町小倉76 (電話)088-645-2233

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 20日

## 【情報提供票より】(平成19年11月26日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0人, 常勤換算 7 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費12,000円, 共益費3,000円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300 円				

### (4)利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 74 歳	最低	59 歳	最高	91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	八多病院
---------	------

徳島県 グループホームハタ 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は山や田畑に囲まれ、自然環境に恵まれた所である。グループホームの職員は、利用者が住み慣れた地域で認知症の状態にあっても自立し、安心して尊厳のある生活が送れるよう、より良いケアを目指し実践に取り組んでいる。また、災害を想定した避難訓練を消防署の協力を得、定期的実施して、避難経路の確認や、螺旋階段を使い屋外に早く出られるよう、建物に工夫がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  前回の改善課題は全て改善されている。パンフレットは新しく作られ、運営方針、理念も記載され、施設概要説明もわかりやすいパンフレットになっている。管理者と法人代表者との話し合いも行われ、市町村担当者との関係も連携ができています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  全職員が評価の意義を理解し、自己評価に取り組み作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  第1回運営推進会議は10月に開催され、家族、地域代表者、見識者、地域包括支援センター職員等で構成されている。会議では、施設概要の説明、施設見学を行っている。会議の内容は詳細に記録され、職員に回覧され確認印が見られる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  意見・苦情に対しての対応は家族の来所の折、問いかけを行い、気軽に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意し、出された意見・要望は全職員で話し合いを行い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  地域のお祭りや行事には参加し、保育所の子どもたちの訪問もある。併設の医療機関の行事には積極的に参加し、交流に努められてはいるが、地元住民との交流はあまりできていない。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、新たに運営方針、理念を全職員で作っている。利用者の方たちが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、全職員が利用者の立場に立った事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を共有し、具体的なケアについて意見の統一を図っている。3つの理念は毎日のサービスに必要な源であることをミーティング時において話し合いをし、実践に向け取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、行事(作品展)には積極的に参加をし、保育所の子どもたちとの交流も図られている。また、併設病院の行事(運動会、クリスマス会等)に参加をし交流に努めているが、自治会、町内会等には加入されておらず、地元住民との交流はあまりできていない。	○	地域住民との交流に取り組んでいかれたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義を理解し、自己評価に取り組み作成されている。外部評価の改善についても検討を行い、実践に向けた具体的な改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議は10月に開催され、家族、地域代表者、見識者、地域包括支援センター職員等で構成されているが、利用者代表が入っていなかった。会議では、施設概要説明、施設見学を行っている。会議内容は詳細に記録され、職員に回覧ができて確認印が見られる。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは施設のユニット改造の際に具体的なアドバイスを受けることができたり、困った時には相談に乗ってもらい解決に繋がっている。日頃から担当者とは連携がとれる事でサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月金銭出納帳のコピー、領収証、ホームだよりを送っている。また、家族の来所の際には利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。金銭については家族等の確認印、サインが見られない。	○	金銭出納帳に、家族等の確認印、サインをされたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員で家族から意見、不満、苦情を気軽に伝えられるよう、常に声かけをし、何でも言ってもらえる雰囲気作りがされている。出された意見、要望は全職員で話し合いをし、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者が馴染みの職員と継続して支援を受けられる配慮がされており、業務内容、時間帯、職員の引継ぎの期間も十分に取られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修内容を共有できるように報告を行い、研修内容報告書も作成している。報告書は全職員に回覧し、サインを得ている。しかし、研修計画を立てるまでには至っていない。	○	職員の力量に応じた研修計画を立て、受講の機会を確保されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織の同業者ネットワークに加入し、研修に参加されている。県内同業者とは交流する機会を持つことでサービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフが自宅に向き、馴染みの関係を作ったり、本人と家族と一緒にホームに遊びに来てもらい、ホームの雰囲気に馴染んでもらうなどし、家族と相談しながら入居してもらえるよう工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な分野を全職員が把握しており、手芸、三味線を職員が教えてもらう等、お互いが寄り添いながら共に過ごせる環境づくりがされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の希望や意向を把握しており、また、利用者から学ぶことで「介護する人」、「介護される人」という一方的な関係でなく、一人ひとりの思いを把握して支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活の中で利用者から希望や要望を聞き、家族からはホーム来所時に気づきや意見をうかがい、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を全職員で作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しはもちろん、利用者の心身の状態に変化が生じた場合、見直しがされている。計画の見直しの際は全職員が参加して新たな計画作成がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の要望に応じて必要なサービスを柔軟に提供している。(通院の送迎、外泊等の送迎等)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設された母体の医療機関により週1回外来受診が実施されている。また、かかりつけ医との関係を築きながら、歯科医、整形外科医、耳鼻科医等の医療を受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者入居の際、利用者及び家族等との話し合いの場をつくり、重度化や終末期に向けた方針を書類に作成され、全職員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけ、対応がされている。プライバシーの保護について、毎日のミーティング時に職員に伝え、徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調、ペース、本人の「希望すること」、「できること」を大切に生活のリズムができている。利用者の気持ちに添った支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は母体医療機関で作ってもらい、利用者が食事の準備、盛り付け、片付けに参加している。利用者、職員が同じテーブルを囲み、会話をしながら楽しい雰囲気作りがされ食事が楽しみなものになるよう配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者同士の話し合いで、入浴の曜日、時間を決めてしている。利用者の中には二人で仲良く入浴ができるよう支援がされている。何時でも自由に入浴できる仕組みとなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に応じた役割、楽しみごと、気晴らしの場面づくりをされている。食事の後片付け、洗い物、手芸、また、三味線をつまびき利用者の方たちに小唄等を聞いてもらう等、「生きがい」を持って楽しく毎日が送れるよう支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回は必ず買い物に出かける機会を作っている。利用者のその日の心身の状態を把握し、できるだけ外出の機会を多く作り、裏山までの散歩など、戸外に出かける支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は日中、玄関に鍵をかけない重要性を認識、理解はしているが、利用者の一人に日中鍵をかけないと落ち着きがなくなり、他の利用者にも迷惑をかけることから仕方なく鍵は掛けられている。	○	鍵をかけないケアの取り組みを検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した避難訓練を消防署の協力を得て定期的に実施されている。避難経路は居室からベランダに出て、螺旋階段を使い、早く外に出られる工夫が建物にされている。具体的なマニュアル、訓練記録も保存されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事、水分摂取量についてはその都度チェック表に記録している。一日の摂取状況は個人記録として残され、全職員で共有されている。協力医の指導の下、栄養バランス、水分量について配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	パンフレットに記載されている共用空間(娛樂室)は改造され、ソファ等が置かれゆったりとした気分が味わえる憩いの場となっている。季節感を感じさせる生花や飾りつけにも工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具類も持ち込まれ、その人らしい生活スタイルに合わせた居室となっている。利用者の好きな生花が一年間欠けることなく飾られている。		